

芸術学領域

芸術学領域は、美や芸術に関する様々な事象を理論的に研究することを主眼とする領域です。

その研究分野は、哲学的な美学・芸術学の研究をはじめ、日本・東洋美術史、西洋美術史、メディア文化論、メディア芸術論、現代芸術論、比較美学、比較芸術学などの諸研究がその対象となりますが、さらに芸術学研究科メディアアート専攻の理論部門を担う領域として、写真、映像、デザイン、デジタル、アニメーション、ゲームなどについての歴史的・理論的研究を志す人の入学も大いに歓迎します。

また単に理論研究にとどまらず、アートマネジメントに関心を持ち、実社会において様々な芸術活動の制作的・文化的担い手となる広い意味でのアートコーディネーターを志す人にとっても、この領域で学ぶことは大いに意味のあるものとなるでしょう。芸術学領域ではさらに、理論研究と作品の実制作との両立が可能です。学部時代から専門としてきた写真、映像、デザイン、デジタル、アニメーション、ゲームなどの実制作を続けながら、さらにそれらに関わる理論研究を志す人たちにその研究の場とともに実制作の場をも提供します。

教員の紹介

Professor Introduction



平山敬二 教授

【専門分野】
美学・芸術学
現代芸術論
ドイツ近代美学・シラー美学
比較美学・比較芸術学
【担当科目】
美学特論
芸術学特別研究
芸術学特論(基礎科目)

研究テーマ ● 美学、芸術学、近代ドイツ美学、シラー美学、ヨーゼフ・ボイス、柳宗悦、現代芸術論、環境美学、自然美学、比較美学、比較芸術学などを研究しています。純粋な哲学的な美学研究と、現代における様々な芸術状況についての考察との間を往還しつつ、美と芸術についての理論研究を進めていくことを自らの課題としています。

メッセージ ● 芸術とは何か、ということを考えることは、同時に人間とは何か、世界とは何か、人生とは何かということを考えることでもあります。個別の美的体験、芸術体験を踏まえながら、現代における芸術的なものの持つ意味と可能性を理論的かつ実践的に考察していくことは、新たな未来を切り開くことでもあると思います。



石川健次 教授

【専門分野】
現代美術論
美術批評
博物館学
【担当科目】
芸術学特論演習II
現代美術特論(関連科目)

研究テーマ ● 近現代美術を多様な視点から研究しています。戦後絵画、版画に重点を置いていますが、国内外の動向を広く調査し、平面にとどまらず、立体やインスタレーションなど多様な表現に関心を広げて多角的な研究を心がけています。展覧会のあり方や美術行政などアートを支える仕組みへも積極的に言及し、調査や研究も続けています。

メッセージ ● アートは、より良く、より豊かに生きていくための思索の対象、あるいはきっかけになると思います。多様化する一方で、李禹煥さんのように「現代絵画の先端で何ができるのか意識している」と絵画への強いこだわりを抱き続けている芸術家もいます。歴史など様々な知識の上に、現代のアートを、同時代の芸術を立体的に論じ合ひましょう。



小川真人 准教授

【専門分野】
美学
芸術の理論と歴史
【担当科目】
芸術学特論演習I
芸術学特別研究

研究テーマ ● ヘーゲルを中心とした近代美学研究から出発し、現代のメディア芸術論を研究しています。メディア芸術論研究では、国内外のメディア芸術の動向を調査分析し、メディア芸術表現が現代社会に投げかける問いについて美学芸術学及び現代思想との関連から考察を試みています。

メッセージ ● 今日、メディア芸術の表現は実に様々ですが、そのメッセージや問題提起を受けとめる言説の準備は必ずしも十分ではありません。このとき、若い人たちの新鮮な感覚や着眼こそが重要な貢献を果たしてくれるのではないのでしょうか。その議論のテーブルで、一人でも多くの方と意見交換したいと思っています。

本領域で育てる人材

diploma policy

芸術学領域が目指すのは、芸術実践についての高度な理解力を備えた専門的芸術理論研究者の育成です。

具体的には、美術館や博物館の学芸員、専門学校や大学等の芸術系教育研究機関の教員、出版社・新聞社・雑誌社・テレビ会社・その他マスコミ関係の職場で芸術についての専門知識を役立てて活躍する人などです。

芸術学領域で学ぶことによって、芸術理論についての高度な教養を身につけた芸術創作者となる人が出ることも考えられます。

本大学院芸術学研究科の特色としての写真メディア、映像メディア、デザインメディア、デジタルメディア、アニメーションメディア、ゲームメディアなどの領域における理論的専門家、具体的にはそれぞれの分野における優れた批評家や各分野の歴史理論研究者、アートコーディネーターなども本領域がその育成を目指す人材と言えます。

教育内容

curriculum policy

芸術学領域のカリキュラムとしては、基礎科目として全領域必修の「芸術学特論(4単位)」をはじめ、「芸術史特論(2単位)」 「美学特論(2単位)」 「芸術史特論演習(2単位)」 「芸術学特論演習I(2単位)」 「芸術学特論演習II(2単位)」 などの科目が選択科目として開設されています。

芸術学領域の学生は、各自の修士論文作成の基となる「芸術学特別研究(6単位)」を含めて、これらの開設科目から12単位以上を履修するとともに、関連科目として開設されている「現代美術特論(2単位)」 「近世日本美術史特論(2単位)」 「西洋美術史特論(2単位)」 「文芸学特論(2単位)」 「演劇学特論(2単位)」 「音楽学特論(2単位)」 「知的財産権特論(2単位)」 などの選択科目の中から最低2科目以上を履修する必要があります。

また、自分の関心や専門に応じて、写真メディア、映像メディア、デザインメディア、デジタルメディア、アニメーションメディア、ゲームメディアなどの他領域で開設されている特論科目のうちから最低1科目2単位以上を履修するとともに、基礎科目である「メディア総合講義(4単位)」を履修することによって、実技系教育を中心とした他領域の先生方のもとでも学ぶことができます。

芸術学領域の学生は、上記の諸科目のうちから合計30単位以上の科目を履修するとともに、最終的には各自の研究課題に基づく修士論文を提出することが求められますが、場合によってはこの修士論文に研究作品としての芸術諸分野における実制作作品を含むことが認められています。

芸術学領域授業科目一覧 (H23年度開講科目予定)

科目名	担当教員	概要
芸術史特論	大森 弦史	「美術にひそむ『わらい』」という主題のもと、美術における遊び、機知、剽軽、滑稽、諷刺、猥褻などについて考察します。各回に設定した表題に沿って、古今東西の芸術家・作品を横断的に取り上げながら論じます。
美学特論	平山 敬二	美や芸術は人間にとってどのような意味を持つのか、このような問いは芸術に関わる者が根本的に懐く、ときには切実な問いでもあります。本講義では、自ら芸術家であると同時にそのような美学的問いに深く沈潜したドイツの詩人、フリードリヒ・シラーの美学思想を中心に、美と芸術に関わる様々な問題を論じ、併せてメディアアート時代のにおける芸術の意味についても考察します。
芸術史特論演習	新藤 茂	江戸の人々が楽しんだように、浮世絵を楽しみながら学んでいくことが基本方針です。浮世絵研究の最新最先端情報を盛り込んで、従来の浮世絵研究の内容・方法・定説を改訂していきます。「浮世絵の理系的な見方」とは何かを踏まえて演習を進めます。浮世絵を知るために「いろいろな切り口」を紹介します。「いろいろな切り口を統合」することによって「浮世絵の実像」に迫っていきたいと思っています。
芸術学特論演習I	小川 真人	この演習では、Marshall McLuhan "Understanding Media"(マクルーハン「メディア論」)を体系的芸術学の観点からテキスト講読します。演習参加者個々の関心領域に配慮しつつ、メディア芸術論的な関心でマクルーハン「メディア論」を検討します。「メディア論」の読解を通じて今日のメディア芸術表現を読み解く視点を確認することを目標とします。
芸術学特論演習II	石川 健次	近現代美術を対象とします。随時、最新のアート情報を盛り込みながら、多彩なアプローチで近現代アートの核心に迫りたいと考えています。多様化するアートの動向の中で、ここでは主として絵画や彫刻、インスタレーションなどに焦点を当て、現在の多彩なアートを理解する上での糧となる知識の蓄積、探求、さらに演習の進展によっては、作品を媒介したディスカッションや創作体験など様々なアプローチを試みます。内容については、演習初日に改めて詳述します。美術が主に視覚表現である以上、豊富なビジュアル資料に触れながら、現代アートを多角的、立体的に検討、論じつつ、ともに体験していきましょう。
芸術学特別研究	平山・小川	受講学生が関心を抱いている芸術学上の問題あるいは個別芸術について、順番に研究発表、討論、研究指導を繰り返すことにより、修士論文を作成するための下地を作ります。

※所属する研究領域において開講されている科目です。

Philosophy of Arts

博士前期
課程